

代表質問

鳥取県議会自由民主党

6月定例会では、前田八壽彦議員（鳥取県議会自由民主党）、長谷川稔議員（会派「かけはし」）の2名の議員が県行財政上の諸問題について、会派を代表して質問を行いました。



前田八壽彦 議員
選挙区 鳥取市

県民参画条例を問う

問 鳥取県民参画基本条例（仮称）を策定するため検討委員会を本年11月を目途に論議されている。知事は何故そのように条例制定を急ぐのか、また、県民の参画案件を想定しているのか。

答 スケジュール感ありきでやっていくつもりはない。現在は、検討の場で民間の方々と素案づくりをして頂いている。素案は強制力のあるものでなく、その素案をもとに皆で議論をしていきたい。その後議会との共同作業で条例案の整備をしていきたい。また、私の方からあらかじめフレームをかけることは控えさせていただきます。

まんが博の盛り上げ

問 国際まんが博が8月4日から始まる。この実施計画書のほぼ全

容が固まったとのことであるが、どう盛り上げていくのか。

答 県民の皆様にもいろいろ呼びかけ、200名を超える方が応援団に加入されている。中・高校生の間でまんが博のことが非常に話題になっている。また、いろんな企画を集めたら200件の応募があり、119件の採択をさせて頂いた。従来の地域づくりとは違った層を掘り起こすというもろろみが見え透していると思う。まさに、今共感を得た広まりになりつつあると思う。

看護師不足の対応は

問 県内の平成23年度から5年間で、看護職員需要見通して毎年300人の看護師が不足することである。この看護師不足にどう対応していくのか。

答 看護師養成については、鳥取大学、倉吉総合看護専門学校、米子医療センターで定員を各10名増やしてもらった。県内の看護師全体では、平成18年度で4,900人程度であったものが直近では5,600人を上回っている。しかし、需要も増えているので看護師不足は深刻。今後とも看護師枠が増えるよう県としても協力体制をつくりたい。また、離職した人の復職や離職を防止するための研究を看護協会と展開していく。

会派「かけはし」



長谷川 稔 議員
選挙区 倉吉市

人権問題

問 ハンセン病患者に対する差別と偏見について尋ねる。また、宅地建物取引上の人権問題について鳥取県人権施策基本方針の策定によりどの程度解決されるのか。

答 鳥取県は全国でもいち早くハンセン病患者の里帰り運動を始めた。偏見をなくし私たちの中でその灯を燃やし続けていかなければならない。同和問題では宅地建物取引業者に対し人権研修を実施。また各種講演会を始め県政だより、ラジオ、テレビなどの各種媒体を通じて県民への啓発活動に取り組んでいる。

島根原発

問 島根原発への対応と決意について。また、島根県等との連携について問う。

答 今国会での成立を目指している原子力規制庁から出される安全基準に照らし合わせながら、安全をまず第一義として問題に当たっていく。島根県等とは、原子力防災連絡会議を開き、住民の避難などを検討している。

医療と保育

問 中学生までの医療費助成対象者の拡大について県の評価は。また利用できる施設を大幅に拡充した病児・病後児保育の運営状況は。さらに保育士養成のあり方検討委員会の状況を踏まえ、保育専門学院の今後について所見を問う。

答 小児医療費助成制度については子育て王国というものを実感できる一つの大きな柱になっている。病児施設は6施設、病後児施設は12施設、合わせて18施設で実施されている。利用時間も早朝、夕方の開設など配慮をいただいている。保育専門学院については検討委員会の結果を待っているところだが、大切なのは、子育てが十分行われるような人材を地域の中で育てていくことと思っている。

北東アジアとの友好

問 アシアナ航空による米子ソール便について行政としての支援は。また、春秋航空の米子空港乗り入れ実現の方策については。

答 インバウンドでは格安の3万ウォンキャンペーン、アウトバウンドではグループ旅行支援、バス代支援を行っている。春秋航空については、チャーター便などで実績をつくりながら、粘り強く交渉していきたい。